

新石垣空港滑走路500メートル延長及び 国内線ターミナルビル拡張を求める要請決議

新石垣空港は、本格的ジェット化空港として中型ジェット機就航可能な2,000メートルの滑走路長を有する空港であり、沖縄県を空港設置管理者とする地方管理空港として平成25年3月に開港した。

新石垣空港開港後は、東京羽田路線に中型機の就航や本土主要空港との直行便就航で、乗降客数及び貨物取扱量は、沖縄県の新石垣空港整備計画の将来需要予測を上回る伸びを示しており、昨年（平成29年）の乗降客数は250万人余、貨物取扱量は18,930トンとなっている。

現在、新石垣空港に就航している航空会社は、本土主要空港を結ぶ直行便機材が大型化（B787-8、-9、B777-200 就航）、新規航空会社の路線就航や国際線就航が増加、新石垣空港の税関空港指定で、更なる乗降客数及び貨物取扱量の増加が見込まれている。

よって当市議会は、新石垣空港の滑走路を500メートル延長し、本格的国際空港として機材の大型化に対応できる2,500メートル化するとともに、既に狭隘状態となっている国内線ターミナルビルの拡張を求める。

以上、決議する。

平成30年3月29日

石垣市議会

あて先 内閣総理大臣、国土交通大臣、沖縄及び北方対策担当大臣、沖縄県選出国會議員、沖縄県知事、沖縄県議會議長、八重山選出県議會議員